

公益財団法人 立松財団 御中
様式 2023C

2024 年 8 月 20 日

所属: 中部大学 工学部
電気電子システム工学科
氏名: 小川 大輔



2023 年度 助成 海外調査研究終了報告書

※ゴシック文字で記入下さい。

<p>渡航目的・ 研究目的</p>	<p>AVS 69th International Symposium & Exhibition で最新の研究成果の発表、最新のプラズマ応用に関する動向の調査</p>
<p><渡航ありの場合> 渡航日程と 海外での成果 (発表・調査など)</p> <p><渡航なしの場合> 成果 (発表・調査など)</p>	<p>11月 2日 (木) 中部国際空港発、ダラスフォークス空港着</p> <p>11月 3日 (金) テキサス大学ダラス校で Prof. L. Overzet 及び Prof. M. Goeckner と 研究打ち合わせ</p> <p>11月 4日 (土) オレゴン州ポートランド到着</p> <p>11月 5日 (日) - 8日 (水) オレゴンコンベンションセンターで、AVS 69th International Symposium & Exhibition に参加 (11/6月 に「Numerical Analysis of Curling Probe Designing for an Effective Electron Density Measurement in Plasma」という題名で研究成果の発表)</p> <p>11月 9日 (木) 発、11月11日 (土) 着 オレゴン州ポートランドより中部国際空港に帰国</p>
<p>研究内容の概要</p>	<p>本海外調査は、国際会議 AVS 69th International Symposium & Exhibition での発表を主な目的としており、今回の会議の参加により、最新の低温プラズマに関する研究 や その動向の調査を行うことができた。この国際学会は、大学や研究所などからの研究者だけが集う会議ではなく、世界中の多くの半導体企業からの参加者も著しく、特に近年は原子層レベルのエッチングや膜堆積において多くの発表があり、反応性プラズマが半導体現場で、現在こういった形で使われ、どのような関心があるかなど、半導体産業におけるトレンドを知るための絶好の機会となっている。今回は特に極低温を用いたプラズマプロセスの発表が多く見られ、フランスの Orlean大学の Prof. Remi Dussart など非常に興味深い発表がみられた。申請者の発表は、会議 2 日目の 11/6 (月) に行われ、プラズマ中の電子温度を計測するためのカーリングプローブに関する最新研究が報告された。この発表では多数の意見や質問をいただくことができ、今後の研究の進展に影響を与えるものとなった。また、会議前に Prof. Lawrence Overzet と研究に関するディスカッションを行ない、今後のお互いの研究発展のための良い情報交換ができた。</p>

提出期限: 終了後すみやかに助成金の「必要経費使途明細書」「レシート(領収書等)」と合わせて提出下さい。